

「放射能の影響で外で遊べない福島の子どもたちのための屋内公園  
「ふくしまインドアパーク」の運営」事業

放射能によって外で遊ぶことができない福島の子どもたちのために  
屋内で安心して遊べる場所と遊びを提供

屋外と同じように思いっきり遊びたい、遊ばせたい。福島の子どもと親たちの切実な声に応えて、病児保育の事業を展開しているNPO法人フローレンスが、そのノウハウを生かして「ふくしまインドアパーク」事業を立ち上げた。2011年12月に郡山園、2012年8月に南相馬園をオープン。それぞれの地域に寄り添った運営を続けている。

コミュニティ創出型の郡山園  
住民とのコラボ型の南相馬園

フローレンスは社会の問題を事業によって解決するソーシャルベンチャー。働く親のために、病気になった子どもを一時的に預かる病児保育事業などを展開している。東日本大震災後、放射能の影響で外に出られず一日中家の中で親子がストレス状態にある福島の実状を知り、「孤育て問題」を解決する取り組みとして都内で運営している屋内公園のノウハウを生かして、「ふくしまインドアパーク」事業を始動した。

本事業部のマネージャーとしてパークづくりに携わってきた今給黎辰郎さんは、郡山と南相馬で運営する2つの屋内公園について、「遊具や監視員を置いただけの画一的な公園をつくってフランチャイズ的に展開していく

のではなく、地域の特性をとらえながら住民のニーズに合わせてパークづくりをしていった結果、郡山と南相馬では全然違ったものになりました」と話す。

郡山園はショッピングモール内にあり、約130㎡と小規模ながら、床や壁にウレタンマットを敷き、エア遊具を選定して定期的に入れ替えるなどの工夫をしている。未就学児を対象に、保育士の資格を持つパークリーダー（施設スタッフ）が常駐して一緒に遊んだり、読み聞かせやダンスなどのプログラムを毎日実施。週末には全国から子どもと遊ぶためにボランティアが集まってくる。今では、地元郡山の英語教室や体操教室の先生や、「おもちゃ病院」のボランティアの人たちがこの場を使ってイベントを開催するようになり、さらに企業もさまざまな形で支援している。なかでもガイドードリンコ株式会社の支援で実現した「踊育(だんいく)ー親子ヒップホップ教室」は大人気で、のちに南相馬園でも開催された。こうしたイベントが人と人をつなげるきっかけになり、郡山園は遊び場からコミュニティ創出の場へとその役割を広げている。

一方、南相馬園は、地元住民1500人の署名から生まれた屋内公園で、内装から遊具選定、除染作業まで地域住民と共に作りあげていった。自然豊かな南相馬にふさわしく、人工芝を敷き詰め人工植物で飾った広々としたス



郡山園では、月2回、地元の英語教室の先生が「英語で遊ぼう」イベントを開催



南相馬園で開催されたふるさと回帰支援センターのマスコットとのふれあいイベント



ボランティアによる読み聞かせに熱心に耳を傾ける子どもたち（郡山園）

ペースに、ブランコやクライミングウォールなど体を使って遊べる遊具を置き、さらに住民たつての希望で水が使える砂場をつくった。2階には多目的室もあり、家族がお弁当持参で1日のんびりと過ごすことができる。ここではパークリーダーと地元住民が協力して運営している。被害が深刻な南相馬ではさまざまな団体が活動し、また支援活動に訪れる著名人も多く、思いがけないイベントも実現している。そのひとつ、英国のバレエ団に所属していたバレリーナの吉田都さんのトークショーには、地元のバレエ教室の子どもがたくさん集まった。

子どもの発育具合に合わせて  
遊びを提供するパークリーダーを育成

「安全な遊び場は比較的簡単につくれますが、求められているのは安心できる遊び場です。子どもの成長を願う大人がいて一緒に遊んでくれる、それが安心感につながると私たちは考えています。ですからこの事業において、パークリーダーの役割はとても重要です。子どもたちどのように接し、どんな遊びを提供するのか。遊具はいつかは飽きられてしまいますが、子どもの発育具合や大人の関与の度合いでその都度変化する遊びは飽きられることがないのです」と今給黎さん。

AJOSCの助成は、主にそのパークリーダーの育成のために役立てられた。子どもに合わせて適切な遊びを提供するには専門的な知識が必要になってくることから、フローレンスではパークリーダーの研修に「ムーブメント」

担当者より



助成をいただき  
人材育成に  
投資できました

認定NPO法人フローレンス  
ふくしまインドアパーク事業部  
マネージャー  
今給黎辰郎さん

震災から時がたち、被災地支援を行う団体も資金も少なくなっていくなかで、高額な助成をいただけて大変感謝しています。人材育成に投資できたことによって、被災地福島県の子育て世代のニーズに応えることができました。私たちの活動にとって大きな契機になったと感じています。

教育を取り入れている。「ムーブメント」は運動遊びを原点とした発達支援法として注目されている理論で、子どもの年齢に応じた運動能力と遊び方を体系立てて学ぶことができる。研修の成果は現れており、パークリーダーたちは自信を持って子どもと接するようになり、子どもたちにとってもふくしまインドアパークはいつ行っても楽しく盛り上がる場になっている。

震災から2年以上がたち、放射能が不安な人のための屋内公園という機能からニーズは多様化してきている。南相馬市では自治体が屋内公園の設立に動き出したことから、南相馬園は2014年2月いっばいでその役目を終えることになった。郡山園は今後も継続し、未就学児がより安心してゆったりと過ごせる場所として機能の充実を図っていくつもりという。



地元の3団体と共同で開催したクリスマスイベントにて（南相馬園）